

2013 年 医療統計実習コラム

4 月 9 日

5 日の入学式は夏日になったくらいの暖かさというより暑いくらいであったが、週末は発達した低気圧が通過して大荒れになるというので、夜、恵子先生とお花見に行くことにする。といっても、家の近所の「わが家の庭」と勝手に称している枝垂れ桜が一本植わっているところ。早めに帰宅し、そら豆を茹で、チーズ、ビールを持ってでかける。このところ岡崎近辺はライトアップしていて観光客がいっぱいなのだが、今日は意外と人が少ない。ところが、特等席の枝垂れ桜の下はすでにお客さんがいて、「うちの庭なのに」とぶつくさいってもしょうがないので、疎水べりのベンチに座ってお花見。今年の桜は咲いてから寒い日が続いたのでよくもった。(これが明日には低気圧でほぼ散ってしまうのだった。)まずはヒューガーデンの白で乾杯。そら豆がうまい。続いてミッケラーのケーレック。これまたホップが効いていてフルーティーでうまい。この辺で自宅に引き上げ続きは日本酒で。まず久在屋のうす揚げを焼いて九条ねぎ、大葉、みょうがをのせてしょう油で。こんな簡単なものがうまいんだよなー。茨木屋のしんじょう、これはそのままわさび醤油で。今日のお酒は播州一献と陸奥八仙の純米吟醸。陸奥八仙は酸味が強くうち好みの味。陸奥八仙とくらべると播州一献はやや弱い感があるが、こちらもいいお酒。ラムシンをさっと焼いておろしポン酢で。アメリカにいたときに日本からの客をステーキ屋に連れて行った。ひとりがポン酢を持参しており、みんなでステーキにかけて食べたらそのうまいこと。グレービーソースなんてちっともうまくな、それ以来うちではステーキ、焼き肉にはおろしポン酢が定番となった。今宵も日本酒が進み、夜は更けていく。

4 月 16 日

金曜の晩、恵子先生と飲んでいるときに、なぜか突然「明日は油長に行こう」ということになった。[油長]は大手筋にある酒屋で伏見のすべての蔵の酒が利き酒できる。というわけで土曜の午後から油長へ。期間限定なる富翁たれくち、本日の生酒、招徳にごり酒、恵子先生は玉乃光純米大吟醸、伏見港純米大吟醸、富翁斗瓶取り。いずれもうまいのであるが、富翁のたれくちが最もうち好みであった。それぞれ花黄桜、神聖祝と豊祝の祝、キンシ正宗平安のしらべを追加し、昼からすっかりいい気持に。京都には日本酒がよく似合う、なんてね。

4 月 23 日

先週、今週と講義だけで 7 コマ(医療統計、疫学各 1 コマ、医学科 G 講義 5 コマ)もあってただでさえ忙しいのに、木曜には薬事・食品衛生審議会の医薬品第二部会があり、新医薬品の審査資料を読まなければならない、ときている。しかもいまは多くは語れないが虫害製薬のはなんだかなあ、という結果。それはさておき、このように例年前期はモーレツに忙しい、誰かなんとかしてほしいものである。しかたないので、こういうときはおいしいものを食べおいしいお酒を飲むに限るのであるが、なぜか奇特な方がいて、楽天から次々とビール

の贈り物が届く。それじゃあ日曜はビール祭りにしようと恵子先生と家族会議で決定。まずはそら豆でよなよなエール(日本)を、みなさんそら豆のおいしい茹で方をしていますか? 次はオードブル盛り合わせ(といってもありあわせのポテトサラダ、牛たんスモーク、ツナマヨ、パンとチーズをテキトーに大皿盛り付けただけ)にヒューガーデンの白(ベルギー)、ブリュードッグ パンク IPA(イギリス)、セントポールスペシャル(ベルギー)。♫は春らしくあざりと竹の子のスパゲティにデモーレンのライIPA(オランダ)。いやあ、うまかった。いつもはこの後強い酒に移行するのであるが、明日は午後から医学科の講義もあるし、せっかくのビール祭りなので、デモーレンの黒ビールとよなよなの黒ビール。このあたりでやめておかないと、明日に響くので本日はここまで。続きは医療統計お花見会のある今週末に。(村上くん、すまん)

4月30日

昼飲みはよくない。なにがよくないかという、夜飲んでも昼飲むことにはならないが、昼飲むと夜も飲まなければならないのである。これは身体に良くない。というわけで土曜は医療統計お花見会であった。秘密のお花見スポット(正真正銘桜、今年は例年より桜が早かったので、花なんかないのではないかと心配したが、はらはらと散る様は風情があった)で、寒水先生一家、D3 小谷さんと1時過ぎから宴の開始。恵子先生と錦平野のお惣菜セット、中央米穀のお結びいろいろ、正起庵のもも串とから揚げ、大平山津月を買い込んで、ビールは小谷さんに研究室からよなよなを持ってきてもらい、みんなで乾杯。途中、寒水先生の前任、大森先生一家も加わり、飲みかつ食べる。寒水功健くん(2歳)が絶好調で、大森奏ちゃん(5歳)にうれしそうにくっついて歩く。さんざん飲んで再び錦に戻り、買い物を済ませて帰宅。そして、冒頭に書いたように家に帰ってからまた夜に飲む。よなよな、ヒューガーデン白にパンクIPA、津月の残り。焼きたけのこがうまかった。これで今年のたけのこも終わりだなあ。

5月7日

今年は溜まっている仕事もなく、久しぶりにのんびりできた連休だった。というわけで連休後半のランチ事情を。連休中に一度はカレーが食べたいという、恵子先生のカレー魂にも火がついたようで、初日から行くという。3日は寺町の[エローラ]で、チキン、マトン、ほうれん草&チキンのカレー3種、焼き立てのナンもパリパリもちもちでうまい。4日は御所南の[花もも]、酒肴膳(豆腐、焼き味噌、鴨ロース)を一人前と福島の日本酒一合(休日だからね)、ざるそば。ここのそばは京都で一番であろう。5日はサンドイッチを作って蹴上浄水場へ。つつじが有名で一般公開しており、まだ満開には程遠かったが、戸外で食べるサンドイッチはいつもより1.78倍くらいうまい。6日も天気がいいのでぶらぶら鴨川べりを歩いて丸太町のキッチンゴンで名物のミニピネセット。ミニといってもかなりのボリュームがあり、食べ過ぎた。

5月21日

5月11日は三条会商店街で、地ビール祭京都2013があった。なんのことはない、例によ

って危険な昼飲みの祭りである。14 時開始なので午前中に掃除、洗濯、買い物を済ませお昼も軽くしておく。時間前から行ってスタンバっているのもなんだか浅ましいので、ぐっとこらえて恵子先生と 16 時ごろ 6 枚つづりの前売り券 2000 円をそれぞれ握りしめて三条会商店街に到着。と、すごい人である。昨年、一昨年とおなじ三条会商店街で開催されたのだが、こんなに人はいなかったがなあ。ビールのブースも 4 ヶ所にばらけていて、とりあえず恵子先生一押しの〔ベアードビール〕でペールエールと沼津ラガーをゲット。どちらもうまいがすきっ腹なのでなにかつまみをゲットしないとたいへんなことになりそう。先生の好きな〔箕面ビール〕は二条側の端にブースがでているようなので、ベアードビールを飲み飲みてくてく歩く。途中、から揚げをゲットしたころにはすでに一杯目のビールは空。今回、フードについては商店街が中心となって、いろんなお店が店頭でつまみを売っている。こうでなくては商店街と祭りが共存できない。さて二条側にはビールブースが少ししかなく、「えっ、な〇はまエールにこんなに並ぶ?(東山丸太町某パブ店主談)」というくらいの長蛇の列。箕面ビールも例にもれず、そんなに並ぶくらいならすいてるところでどんどん飲んだほうがいいので、比較的すいていた〔アウトサイダーブルーイング〕で、すかさずゴールデンエールとベルジャンホワイトをゲット。たこ焼きに、新しくできたラーメン屋の店頭で売っていたチャーシュー・メンマ・キムチのおつまみセットを買い、今度は先生一押しの〔志賀高原ビール〕で SOBA と志賀高原 IPA。ここの志賀高原 IPA はいつ飲んでもとんでもなくうまい。まんなかの公園付近に引き返し、〔ブリマーブルーイング〕で一周年記念だというアニバーサリーエールとポーター。このアニバーサリーエールにやられた。香りといい、すっきりした中にもコクのある味わいといい今年一番のうまさ。続いて〔國乃長ビール〕で貴醸ゴールド、〔丹波篠山ジグザグブルワリー〕でイングリッシュブラウンエール。この 2 つどちらもおいしいけれど、このレベルでは普通。さてこれでようやく前売り券は残り一枚ずつ。最後はそれぞれ一番おいしかったビールにしようと、先生はブリマーのアニバーサリーエール、恵子先生は沼津ラガー。おつまみセットのチャーシューがめっぽううまかったので、帰りにチャーシューだけ買いにラーメン屋にもどり 10 枚購入。昼からビールを 6 杯も飲んで、しかもいずれもおいかったのですっかりいい気持である。ふたりでふらふらしながらなんとか二条城から地下鉄で帰る。

しかしこれで済まないところが昼飲みのいけないところなんだよなあ。と夜の部へつづく。

5 月 28 日

先週は「日本計量生物学会」という医療統計家の集まりの年会在福島であり、寒水先生ともども参加してきた。開催場所は昨年、先生が学会長のときに決めたのだが、なんとか震災の復興に少しでもお役にたてないかと、最初に東北大学の先生に打診したものの、スタッフがいないのでちょっと引き受けられる状況ではないと断られてしまった。仕方なく、庶務理事に東京での会場を探してもらっていた。ところがなかなかいい場所が見つからず思案していた。昨年の日本計量生物学会功労賞受賞者の福島県立医大 柴田義貞先生(「正規分布」という正規分布だけで一冊の本を書かれています)が、「福島は酒がうまい、野菜がうまい、

肉がうまい、魚もうまいがこれは今ちょっと食べられないのが残念。しかし、うまいものが多いので、みなさん是非きてお金を落としていってください」と受賞のあいさつをされた。たまたま庶務理事のお一人東大の大橋先生が福島出身だったので、なんだったら福島で年会を開催しませんか、と提案すると、とんとん拍子に福島開催が決まり、福島駅から電車で 25 分の飯坂温泉にあるパルセイいざかで開催と相成った。しかも具合のいいことにその大橋先生が新学会長に。まるで誰かが仕組んだようである。

例年、応用統計学会と一緒に(といっても合同開催ではなく連続開催とでもいうのだろうか)開催しており、今回ははじめて懇親会をしようということになった。23 日と 24 日の午前が日本計量生物学会、24 日午後と 25 日が応用統計学会なので、24 日の夜に学会場のパルセイいざかで懇親会をすることにした。先生は腰が悪いのとなんだか食べた気がしないので立食パーティーは嫌い。なので学会の懇親会なんぞにはよほどのことがなければ出ないで、気の合った人たちと飲みに行ってしまうのであるが、今回は開催場所を決めた張本人であるし、理事として参加しないわけにはいかない。大橋会長がはりきって日本酒とワインをお取り寄せし、なかでも福島の銘酒「大七」の「純米生もと生原酒」はうまかった。みなさんは京都市の「清酒の普及の促進に関する条例」をしているだろうか。先生は京都市条例を盾に当然のように日本酒で乾杯、そのまま大七を飲み続ける。合間に気分を変えてビールとワインも多少は飲んでみたが、基本大七で通したらさすがにしたたかに酔っぱらってしまった。普通、懇親会で飲んだ程度で酔うことはないのであるが、すっかりいい気持ち。

一番たいへんだった企画担当の理事の先生も終わってほっとしたのか、いい加減に酔っぱらっていて、二次会に行こうというので、寒水先生も一緒にみんなで二次会に。みなもうすでに酔っぱらっているのになにを話したのかもよく覚えていないが、また日本酒とビールを飲み珍しく外飲みでそうとうに酔っぱらった。でも宿まで歩いて 3 分の距離なので安心である。なんとか最後にもう一風呂浴びる余力だけは残っていた。

6 月 4 日

4 月末の医学部でのミニ集中講義が終わり、5 月は一息ついた、と思っていたのもつかの間、先週からまた怒涛のような日々が始まった。月曜は薬事・食品衛生審議会の医薬品第二部会で東京出張(この日は大きな問題となるような品目はなくてよかった)、その後薬剤疫学会の理事会というおまけつき、火曜は医療統計、木曜は疫学会の編集委員会でもまた東京出張、そして土曜から集中講義の「観察研究の統計的方法」で大阪大学中之島センターで 2 コマ講義。今週はというと火曜の医療統計後にゼミの当番、金曜は疫学の講義、土曜は観察研究で 2 コマ、次の週は火曜医療統計、土曜観察研究でもまた 2 コマ、その次は医療統計こそ創立記念日でお休みなものの、木曜に京大のがんプロフェッショナル養成プランの講義、観察研究の統計的方法は終わったが代わりに土日と今年で 9 年目となる小児内分泌の医師を対象としたリリースpringセミナーで医療統計ワークショップ、今月最後は火曜の医療統計に木金と乳癌学会で「医療統計を学ぶ」初級編と中級編の講演。もはや自分でもなに

がどうなっているのかわからず、ただただ講義の準備に追われる毎日となっている。

まあこういうときは体調を壊さないように粛々と予定をこなして、怒涛が通り過ぎるのをじっと我慢するしかないのであるが、やはり美味しいものを食べて気分転換するのが一番。というわけで、土曜は中之島野からの帰りに高島屋に立ち寄って、すぐに食べられるものを暴れ買いして帰ることに。献立はアスパラの紹興酒蒸し、久在屋のうすあげを焼いてねぎ醤油で、これはよなよなとともに。続いて、おなじく久在屋のもめんで冷奴、豆藤のかぼちゃ・切り干し大根・ひじき、さば生ずし、きぬさや玉子とじ、もうこれは日本酒でしょう、と土佐のしらぎくうすにぎり微発砲を開栓。「二次発酵しているので、開け閉めをくり返してゆっくりと」なんて書いてあるが、無視して一気に開けたら吹き出しそうになり、あわてて一度栓を閉める。これがまたかなり甘いが酸味と泡感がマッチしておいしい。あてがちょうど日本酒にあうのと、しらぎくの口当たりがいいので、ふたりで 4 合開けてしまった。そのあとグレンモーレンジのソナルタを開けて少し飲んだところで、今朝も早起きだったからか、11 時半ごろに撃沈してしまった。

6 月 11 日

2010 年 4 月からペリー・ローダンシリーズの読み直しプロジェクトを開始して早 3 年が過ぎた。100 巻から読み直し始めて、今年の 5 月で 265 巻まで読んだので月 4 冊強のペース。このところあまり面白くなかった大群サイクルなので進み具合がよろしくないのであるが、まあいいペースだろう。現在は、というと、今月でとうとう 450 巻、ヴェルガースペアでソルとバジスがパン=タウ=ラをめぐる大騒動をくり広げているのであるが、そもそもパン=タウ=ラはテルムの女帝と一体化したバルディオクの播種船(そうだ、これが大群とつながるのだった)として使用されていたもので、なんで 13 分の 1 だけハイパースペースからはみ出ているのかもよくわからない、謎が謎を呼んでつづく、という状態がこのところずっと続いている。突然登場したルーワーはどうなっているのか、ほとんど忘れ去られたホトレノル=タアクはどこにいったのか、ボイト・マルゴルの悪行はいつまで続くのか…。こっちはこっちで毎月 2 巻刊行されているので、それも読まなければならないし、急展開が続いていて、これってちゃんとまとまるんだろうか。(そういえば分子変形能力者はどうしたんだろう?)死ぬまで読み続けても終わらないことがわかっているシリーズ、困ったものである。

6 月 25 日

火曜は創立記念日で講義・実習こそなかったものの、木曜のがんプロ講義と土日のスプリングセミナーとで相変わらずであったが、先週は実習レポートがなかった分だけ楽だった。今週は木金と乳癌学会で講演、怒涛はまだまだ続く。

日曜は午前中に医療統計ワークショップを行い(参加者の若手小児内分泌医に臨床研究のコンセプトを提出してもらい、みんなで検討するというもの)、テーマの一つが福島第一原発からのヨウ素 131 により先天性甲状腺機能低下症が増えているかどうかを新生児マスキリーニングの結果で調べよう、というなかなかおもしろいものだったので、興が乗ってしまっ

た。午後大阪から帰洛し、排水管清掃があるので先生は自宅待機、恵子先生は買い物に。排水管清掃は10分ほどで終わり、のんびりする。恵子先生がヤングコーンを買って帰ってきたので、どうやって料理したらいいのかインターネットで検索し、とりあえずそのまま焼いてみることに。そら豆を蒸し、トマトサラダとともによなよなの今日はアンバーエールで、お疲れ様、乾杯。トマトサラダは輪切りにして軽く塩こしょうして冷蔵庫で冷やし、オリーブオイルとバルサミコをかけただけのシンプルなものであるが、これがうまい。そら豆ももう終わりだからやめたほうがいいね、なんていってたのだが、宮城産とかでこれも柔らかくてうまかった。さて、グリルで焼いたヤングコーン。皮をむいて、中のひげも食べられるというので半信半疑で食べてみると、ちょっと青臭いが甘くておいしい。身というのか茎も含めて塩で食べる。ヒューガーデン白を飲み、あとは日本酒に。蓬莱泉の和と会津中将。焼き鳥と水なすの田楽を食べながら、日本酒が進む。水なすも東京ではみかけたことのない野菜であるが、こっちにきてすっかりはまってしまった。これからはなすがおいしくなる季節だ。

7月2日

木金と浜松の乳癌学会に行ってきた。大会長の渡辺亨先生は恵子先生ががんセンターで働いていたときの上司で、夫婦セットでワークショップを頼まれ、同じ時間帯に隣の部屋で2日間講演する、というもの。浜松と言えば「うなぎ」である。ということで、木曜の昼は京都をでるときから頭の中を「う」と「な」と「ぎ」の三文字が踊り狂う。浜松では渡辺先生お勧めの「うな炭亭」と決めている。荷物を持ったまま駅からうな炭亭へ直行。と、シャッターが閉まっているではないか。がーん、なんと木曜定休。しかたないから今日は浜松餃子にしてうなぎは明日の昼にしようかなどと自分をだまそうとしてみたものの、鰻モードはごまかせなかった。急遽家族会議を開催し、駅前の「八百徳」でうなぎを食べることに決定。恵子先生はうな茶御膳（いわゆるひつまぶしですな）、先生はうな重。うな炭亭のパリっとした焼き上がりではなかったが、ふっくらとしておいしかった。満足してすばらしい講演ができたことは言うまでもない。

7月9日

金曜から寒水先生、薬剤疫学の田中先生と北京の中国人民大学で開催された「第4回東アジア地域計量生物学会議」に参加してきた。昨年、神戸で国際計量生物学会を開催したのだが、東アジア地域会議は2年に一度の国際会議の合間の年に、日本、インド、韓国、中国支部が持ち回りで開催している。これまで、東京、マニパル（インド）、ソウルで開催し（ソウル旅行日記は医療統計ホームページを、マニパルは日本計量生物学会ニュースレター2010年2月号を参照）、今年は北京開催とあいなった。前回のソウルは2月で死ぬほど寒く（先生お得意の誇張ではない、まじでマイナス20度）まいったが、北京は熱い。インドからの参加者が暑いといていたので、間違いない。また日曜は曇りだったこともあり大気汚染がひどかった。空気が煙ってみえるし、外を歩くと目がしばしばするという急性影響がでるくらいである。そんな北京で楽しみにしていたのは、もちろん医療統計の講演、などではなく中

華料理である。朝ホテルのbuffetには洋食と中華が並び、中国方たちは当然みな中華を食べている。昼は会議の昼食で、これは人民大学の食堂(学食よりもワンランク上の感じがするレストラン)でbuffet。カンファレンスディナーももちろん中華、と中華中華中華の毎日であった。しかもまた日本では食べたことのないような料理が次々と出てくるし、ディナーでは10人のテーブルに一皿一皿の量はそれほどでもないのであるが、とにかく種類が多いので食べきれない。ほんの一口食べるだけなのだが、途中からもうちよつと、と帰れま10のつらさがよくわかる。どのテーブルも半分は残していたのではないだろうか。味はときたまビョーなものもありはしたが、そうじておいしかった。日曜のディナーは人民大学統計学科主催で、前日のカンファレンスディナーよりも明らかに質が高く、なんといっても長ネギとなんだかわからないゼラチン質の細長いものの味噌炒めがたいへんおいしかった。ピリ辛な料理が多く、寒水先生は辛い物が苦手なのでだめなものもあったようだが、先生はおいしく食べられた。